

「ノグチゲラ」リーフレットが完成しました

沖縄島北部の森だけに棲むキツツキの仲間、県鳥や東村の村鳥になっているノグチゲラ。平成11年よりやんばる野生生物保護センターでは、不明な点が多かったノグチゲラの生態について、西銘岳を中心とする地域で調査を続けてきました。この度、その成果を一般向けにわかりやすく解説したリーフレットが完成しました。関係機関や北部3村内の小中学校、辺土名高校の皆さんへ配布するほか、センターで無料で配布しています。

昨年12月15日、道の駅ゆいゆい国頭において開催されたノグチゲラ120周年記念講演会には、3村内外から多数の方にお集まりいただき会場が満員になるほどの盛況でした。ありがとうございました。



リーフレット表紙

おめでとうございます！

昨年12月3日、第42回全国野生生物保護実績発表大会（主催：環境省、（財）日本鳥類保護連盟）が東京において開催され、全国から選ばれた10校が発表を行いました。国頭村立安田小学校の児童が「野生生物（ヤンバルクイナ）の保護活動」をテーマに発表を行い、見事、環境大臣賞を受賞しました。



安田小学校提供

狩猟期間中です

2月15日までは狩猟期間です。不慮の事故を防ぐためにも狩猟者に分かりやすい服装で山に入るなどして、十分に注意してください。狩猟される方はルールやマナーを守り、一般の方に迷惑をかけないよう安全な狩猟を心がけてください。また、野生生物の保護のため、猟犬は適正な管理をお願いします。

お詫び 前回配布したニュースレター第1号の写真の一部に不明瞭なものがありました（一部の地域）。申し訳ありませんでした。修正版はセンターで配布しています。

やんばるニュースレター

発行：環境省 やんばる野生生物保護センター

No. 2

Yambaru Newsletter

2008年1月
発行

やんばる地域の国立公園に関する検討会がスタートしました

環境省では、やんばる地域の重要な自然環境を適切に保全し、地域の振興も図られるよう、やんばる地域を国立公園とすることを検討しています。ニュースレターでは、その検討状況についてご紹介していきます。



第1回検討会の様子



桜井国俊 沖縄大学学長（座長）

昨年12月6日（木）、「第1回やんばる地域の国立公園に関する検討会」（座長：桜井国俊沖縄大学学長）が開催されました。検討会は8名の学識経験者と国頭村、大宜味村、東村の各村長の計11名の委員で構成されています。

第1回検討会では、環境省より、やんばる地域の国立公園に関する検討の経緯と今後のスケジュール、やんばる地域の価値と地域の概況について説明を行い、来年度以降具体的な国立公園の区域や計画を検討していくための指針となる「基本的な考え方」を今年度まとめることなどを説明し意見交換を行いました。委員からは以下のような意見が出されました。

- ・特定の生き物だけでなく、やんばるの生態系全体を保全するという視点が必要。
- ・長期的視点に立ち、持続可能な利用のあり方を検討する必要がある。
- ・検討対象となる「やんばる」の区域のとらえ方を整理する必要がある。
- ・地域が元気になり、誇りを持てるような公園を目指すべき。
- ・地域に残る文化を評価する必要がある。
- ・地元住民や地元産業への配慮が必要。
- ・しっかりとした丁寧な地元説明を行う必要がある。

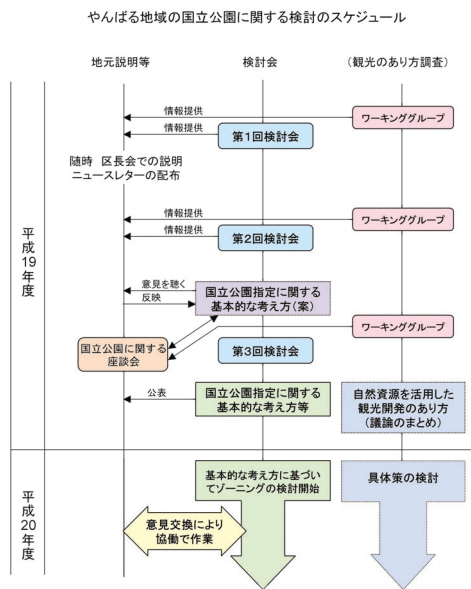
*裏面へとつづく

ニュースレターに関するお問い合わせはこちらへ

環境省やんばる野生生物保護センター
〒905-1413
沖縄県国頭郡国頭村字比地 263-1
TEL:0980-50-1025
FAX:0980-50-1026
e-mail:RO-YANBARU@env.go.jp

今回の第2回検討会では、今回委員から出された意見を参考に作成した「基本的な考え方」の素案を検討する予定です。

今年度は検討会を3回開催することを予定しており、第2回検討会は1月17日(木)、第3回検討会は2月14日(木)に開催されます。第2回検討会は、やんばる野生生物保護センター多目的ホールで開催される予定です。傍聴ご希望の方はやんばる野生生物保護センターまで事前にご連絡下さい。



国立公園に関する座談会を開催します

やんばる地域の国立公園に関する「基本的な考え方」をとりまとめるにあたって、地域住民の皆さんの意見を直接お聞きするため、下記の日程で座談会を開催いたします。

当日は専門家を招いた講演会も併せて開催する予定です。やんばるの将来を考える上での参考にしてもらえるような専門家をお呼びしますので、多くの方のご参加をお待ちしています。

詳細は改めてご連絡します。

- ・国頭村 2月5日(火) 18:00-20:00
道の駅ゆいゆい国頭 多目的ホール
- ・大宜味村 2月1日(金) 18:00-20:00
道の駅おおきみ 2階会議室
- ・東村 2月4日(月) 18:00-20:00
東村役場 大会議室

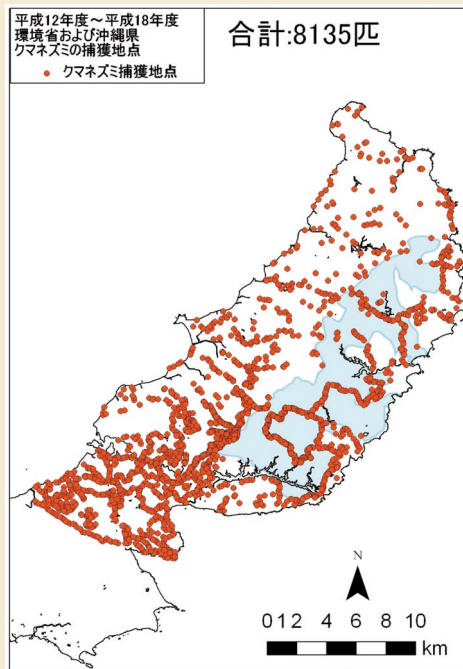
やんばる野生生物保護センターの最近の話題

新年特集

やんばるのネズミたち



オキナワトゲネズミ



あけましておめでとうございます。

今年2008年は子年。今回はやんばるに棲むネズミについてお知らせします。

現在やんばるには、もともとやんばるに棲んでいるオキナワトゲネズミ、ケナガネズミ、オキナワハツカネズミ、ヨナクニハツカネズミの4種(オキナワハツカネズミとヨナクニハツカネズミについては人為的に持ち込まれたとする説もあります)に加え、人為的に持ち込まれ定着したクマネズミとトブネズミが棲んでいるとされています。ここでは、特に絶滅が心配されているオキナワトゲネズミとケナガネズミを取り上げたいと思います。なお、ワタセジネズミとリュウキュウジャコウネズミはモグラの仲間です。

オキナワトゲネズミ

世界でやんばるの森だけに棲むネズミ。長い間、奄美大島、徳之島に棲むトゲネズミと同じ種と考えられていましたが、近年の研究によってそれぞれの島で長い時間をかけて別の種に進化したと考えられるようになってきました。名前のとおり、体に平たいトゲ状の毛が生えているのが特徴で、尾を除いた長さが11cmから17cmくらい。夜行性で、木の実や昆虫を食べると言われていますが詳しい生態は不明です。国の天然記念物。

近年の生息情報はほとんどなく、絶滅の危険性が極めて高い(環境省RDB絶滅危惧I A類)とされています。生息を脅かしている原因としては、森林伐採や道路工事などによる生息環境の変化、ノネコやマングースなど捕食者の侵入が考えられています。過去のノネコの糞からは実際にトゲネズミの毛が見つかっています。

また、ノネコやマングースが生息していないと考えられる場所でもトゲネズミが確認されないことから、外来種であるクマネズミがトゲネズミの生息を脅かしているのではないかと指摘もあります。図はこれまでにマングースを捕獲するためのワナに入ったクマネズミの捕獲場所を示したのですが、クマネズミはやんばる地域のほぼ全域に生息していると考えられます。

昨年度から哺乳類の研究者を中心とするグループによって生息状況調査が始まっており、その結果が注目されます。

ケナガネズミ

沖縄島、奄美大島、徳之島だけに棲む日本最大のネズミ。沖縄ではやんばるの森だけに棲む。大きさは、尾を除いた長さが22cmから33cm、尾の長さが24cmから33cm。背中に多数の長い剛毛(50～60mm)が生え、尾の先が白いのが特徴。昼間は樹洞で休息し、夜間に樹上や地上で行動します。木の実や昆虫を食べると言われていますが詳しい生態は不明です。国の天然記念物。

生息数は少なく、絶滅の危険性が高い(環境省RDB絶滅危惧IB類)とされていますが、目撃例はあり、マングースの生息が比較的多く確認されている地域での生息も確認されています。昨年も数例が目撃されています。

生息を脅かしている原因としては、トゲネズミ同様、生息環境の変化やノネコなどの捕食者の侵入が考えられ、過去のノネコの糞からは実際にケナガネズミの毛が見つかっています。また、昨年末には交通事故も国頭村と大宜味村で確認されました。

これらのネズミを目撃された場合には、疑わしいものも含め、やんばる野生生物保護センターまでご連絡いただけますようお願いいたします。



ケナガネズミ